

ご自由にお持ち帰りください。

生涯学習

とっとり

鳥取県教育委員会発行
2015.5 皐月

158

鳥取県内の生涯学習講座が満載!

ページ
1 ★特集

地元の資源を活かした 住民の手による地域づくり

琴ノ浦まちおこしの会

- 3 ★〈防災〉若桜町大野集落の取組みを紹介します!
‘向こう三軒両隣’の復活
- 4 ★とっとり県民カレッジ
●5・6月講座情報(連携講座)
- 26 ★連携講座 おすすめピックアップ
●弥生のフィールドミュージアム! ●安野光雅の世界展
- 27 ★鳥取県立生涯学習センター(県民ふれあい会館)
●魔法の板「カブラ」で遊ぼう! ほか
●ふるさと再発見生涯学習講座(自然)
- 29 ★お知らせ
●大山青年の家 ●船上山少年自然の家
- 30 ★●とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた皆さんをご紹介します
●子どもたちが読書に親しむために頑張っています!
●鳥取県立図書館へ行こう!
- 31 ★ご案内
●鳥取短期大学
●社会人入学をご希望の皆さま、ご相談ください!
●とっとり県民カレッジ主催講座
●未来をひらく鳥取学



『切り絵シリーズ』美萩野あじさい公園(鳥取市)

あじさい公園愛護会のみなさんの手入れもあって、毎年美しい花が見事です。
この時期、近くを通る列車目当ての鉄道愛好家のスポットでもあるとか。

絵・文：紙原 四郎氏

地元の資源を活かした 住民の手による地域づくり

琴ノ浦まちおこしの会



小泉 八雲
(ラフカディオ・ハーン)

小泉八雲が愛したまち 八橋 (琴浦町)

琴浦町八橋海水浴場近くの旧中井旅館。

海風薫る古い町並みの中にたたずむこの旅館には、小泉八雲こいずみや (1850 - 1904) が明治 24 年に、セツ夫人と新婚旅行に訪れたという記録が残っています。

「八橋ではとても愉快でした。眠り食べ泳ぎ全く快適です」(原文) 八雲が友人に宛てた便りには、この旅館を心から楽しんだ様子がうかがわれます。

もともと小泉八雲とのつながりに注目していた琴浦町観光協会(旧東伯町観光協会)は、平成 15 年、八雲没後百周年を契機に観光資源としての事業化に着手。翌年には小泉八雲の曾孫にあたる小泉凡こいずみぼんさん(島根県立大学短期大学部教授)の協力を得て、八橋の浜辺に小泉八雲夫妻の来訪記念石碑が建立されました。

明治の昔から訪れた人の心を癒してくれるここ旧中井旅館を拠点とした、「琴ノ浦まちおこしの会」の地域活性への取組みについて、メンバー 4 人の方にお話を伺いました。

この会を立ち上げたきっかけは、 山陰道「東伯・中山道」の開通

副会長兼事務局 高塚 良平たかつか りょうへいさん



山陰道「東伯・中山道路」が開通すると、国道 9 号線の交通量が減り、地域が廃れていくのではないかと危機感が相当ありました。

景観まちづくりのセミナーや、地域おこし講演会で外部の方からアドバイスをもらいながら、琴浦をどうしていこうかと考えていきました。われわれは素人ですので(笑)。その中

で観光のテーマは小泉八雲でいこうと。「琴ノ浦まちおこしの会」を作ったんですね。平成 19 年 4 月に発足。会員は 62 名。実働は 20 名ほどですが、旧中井旅館を活用しながら琴浦観光の魅力を発信し、少しでも琴浦が元気になるお手伝いをしようとスタートしました。

まず始めに取りかかったのは、 小泉八雲の紙芝居作り

幹事 吉田 裕史よした ひろしさん
(琴浦町観光ボランティアガイド)



小学校 3 年生では「地域の宝を知ろう」という総合学習の授業があります。子どもたちに八雲のことを知ってもらうには紙芝居がいいのではないかと、会員が手作りしました。『耳なし芳一』をはじめ、『雪女』、『猫の恩返し』など、毎年、町内の子どもたちに小泉八雲と琴浦のつながり、八雲の名作を伝えています。子どもたちは反応がいいですね。しっかり見てくれる。心のどこかに残っていてくれたらという思いでやっています。



紙芝居の様子

次に琵琶の語りと演奏があったらいいんじゃないかと弾き手もないのに琵琶を買まして（笑）。その後、地元で音楽教室を主宰されている女性に勉強してもらって、「紙芝居と琵琶の生演奏」という一つのスタイルができました。今では中国地方唯一の琵琶奏者に成長されました。観光協会とタイアップした「琴浦へるんツアー」では観光客にも披露します。以前から小泉凡さんとの交流があったことで、島根から年に一回、100名くらいの学生さんが授業の一環として旧中井旅館に来られます。また、県内外の公民館活動の研修として来られる方も多く、年間10回ほど上演していますが、来ていただいた方はみなさん満足していただいているのではないのでしょうか。地元女性グループに作ってもらった手作り奈良漬が入った八雲弁当をお出ししますが、これも評判がいいようです。

また、凡さんが会長を務める山陰日本アイルランド協会の協力で、「アイルランド音楽の夕べ」という催しも実施しています。近くの酒蔵跡を利用して八雲ゆかりのアイルランドの音楽を楽しみます。



アイルランド音楽の夕べ



小泉八雲夫妻来訪記念石碑



古着を集めてちくちく 布あそびで和気あいあい

副会長 やまむら のりこ 山村 典子 さん



一週間に一回、旧中井旅館で「布あそびの会」をやっています。着物の古着はありませんか〜と呼びかけたら、たくさん集まりましてね。地元の布が大好きな人が集まって、布を洗う人、アイロンをかける人、縫う人、それぞれ役割があって、和気あいあいとおしゃべりしながら仲良くやっています。バッグ、布袋、パッチワークやドレス、小物など何でも作ります。

もう三回目になりますが、展示会をこの2階でやるんですよ。毎回大盛況です！



古布の展示会

やっている私らが一番 楽しんでいるから続けられる

会長 くわもと けんじ 桑本 賢治 さん



まちおこしには、地域の魅力を発信していけるガイドが大事です。私たちのグループのガイドさんも常にスキルアップしてくれています。この会のメンバーの平均年齢は65歳くらいでしょうか。第一線をリタイアした者達の楽しみの場でもあります。若い人達にも入ってもらって世代交代を上手にやっていくことが課題でもあります。

だんだんマンネリになっていくことを恐れますが、「琴浦まちづくりネットワーク」の力を借りて、自分たちの力ではできないことも他の団体と連携しながら地域の宝を継承していきたいですね。今後もいろいろなことに取り組んでいけたらと思います。

お話をうかがって

「そこに住んでいる人がいきいきしていないと、来られる方も楽しくない」と笑顔で語られたメンバーの方々。米子から来られた公民館研修の方の口コミが、大きな宣伝になったといいます。心を込めたおもてなしが人の心を動かすのですね。小泉八雲が愛した八橋の旧中井旅館を核として、八雲の世界が広がり継承されていくことでしょう。

琴浦へるんツアー

旧中井旅館で小泉八雲の名作『耳なし芳一』の紙芝居をみたり、花見瀧墓地、鳴り石の浜などを散策したりするなど、琴浦の名所旧跡を巡るツアー。八橋の静かな町並みや寺社のほか、菊港から見る夕日の美しい景観や八橋海水浴場など、豊かな地域資源にも恵まれた琴浦の魅力が再発見されています。

琴浦の町並みは、夢街道ルネサンスに認定

中国地方の歴史・文化が残る街道の魅力を活用した地域づくりを進めているとして国土交通省中国地方整備局に認定されました。

琴浦町の海岸線（県道大栄赤碕線：花見～逢束、約10km）が「琴ノ浦歴史街道」として夢街道ルネサンス認定地区に認定されました。

認定の理由は、歴史と自然を感じさせる景観が多くあることなどです。

町内の町おこしグループ「琴ノ浦まちおこしの会」が小泉八雲にちなんだ地域づくり活動をされており、その地域資源をいかした新たな琴浦の魅力の発信や、地域住民、他地域との交流なども評価されました。（琴浦町観光協会）



若桜町大野集落の取組みを紹介します！

「向こう三軒両隣」の復活 防災

～地域みんなで取り組む防災活動と防災意識の向上を目指して～

きっかけは「支え愛マップ」

若桜町大野は、周りを山に囲まれた高齢化率 60% を超える 28 戸の集落です。

昔は隣近所で「いらんお世話」と思いながらも、よい意味でのおせっかい「向う三軒両隣」のつきあいがありました。高齢化が進む中で、その言葉さえ忘れかけていた時に、若桜町社会福祉協議会（以下「社協」）から「わが町支え愛活動支援事業」小地域福祉座談会の開催の案内がありました。東日本大震災を教訓として、平成 24 年 11 月に自治会として「支え愛マップづくり」に取り組むことを決め、12 月に住民が集まって各戸の居住者数や支援の必要な人の有無、だれがだれを援助するのかなど熱心に話し合い、1 軒 1 軒の情報を掲載した「支え愛マップ」を作成しました。

防災の日に避難訓練を実施することに

その後、自治会で平成 25 年度の事業活動を検討する役員会で、前年度購入した車いすやリヤカーを使用して、9 月 1 日（防災の日）に避難訓練を実施することを決め、役員でスケジュールやシナリオ、支援の必要な人の避難方法などを決め訓練に備えました。

訓練当日は、役場、包括支援センター、社協の方が見学される中、住民が一体となってマップをもとに車いすやリヤカーを使って要援助者の避難を行い、どのような手助けや、どの位の時間が必要なのかなどを確認しました。この訓練を実施して、あらためて「支え愛マップ」による障がい者や要援助者に対する避難支援体制の重要性を認識することができました。

訓練終了後の参加者全員による反省会では、ざっくばらんに意見を出し合ったり、見学された役場の方等からも貴重なアドバイスをいただき、防災に対する意識が高まり、その後の活動に繋げていくことができました。

集落全戸の理解を得て作成した「支え愛カード」

平成 26 年度も避難訓練を実施するとともに、「支え愛マップ」の見直しと同居の家族状況や災害が起きた時の優先順位をつけた緊急連絡先、持病等を記載した各戸別の「支え愛カード」を新たに作成し、緊急時に備えました。当初は個人情報の問題で記入に反対される方もいましたが、現在は、皆さんの理解を得て、集落全戸に書いていただき、有事の際はすぐに活用できるようにしています。これも東北と広島の実験で、安否確認ができなかったという大きな課題があったことに住民自身が危機感を持ったからでした。

自主防災は日頃の住民同士のコミュニケーションから

大野集落には、土砂災害特別警戒地区に指定されている地域もあり、いつ発生するかわからない災害から身を守るために、行政のみに頼らない、自主防災が必要と感じています。そして、「向こう三軒両隣の関係」があるからこそ防災の取組みが成り立つものと考え、春にはグランドゴルフと昼食会、夏は美化活動の後にバーベキュー、秋は芋煮会を実施するなど、日頃から住民同士のコミュニケーションを図る工夫をしています。

また、防災に精通している役員が、避難訓練の後に参加者に防災の知識や重要性について伝える等、学習会を実施しています。

こうした取組みにより、住民の防災意識が確実に芽生えてきたと感じています。

高齢化の問題もありますが、今後もこの取組みを継続することで、より一層防災意識が向上していくものと期待しています。

（寄稿：大野自治会 防災訓練担当 にしちとまさとし 西本正敏さん）



日頃の訓練で車いすやリヤカーの使用法に慣れておく必要があります！

住民同意の下で話し合ったマップを公民館に掲示し、縮小版を各戸に配布しています。

